

中津市本耶馬溪小中学校図書館の現状

－課題点と必要性について－

青島 美子

1、はじめに

激しく変動する現在、子どもたちが時代に対応して生きてゆくためには、もっと教育に力を入れるべきだと考えます。その中で図書館教育は生きる力（5教科や他教科全ての総合力）を養うものです。道徳、倫理、コミュニケーション力など心を育てる教育でもあります。また、先を見る力（先見の目）、時代をよむ力（今を生きる力）、今何が必要か、また、これからどうしていけばいいのか、など自発的に考え行動していくことを考える力を養う教育です。もう一つは、情報社会で生きていくため、何が必要か不必要かを判断していく力もつけることもできると考えます。

2、大分県中津市の学校図書館の現状

文部科学省は、学校図書館法の改正により、2003年までに全国の小中学校で12学級以上の学校に司書教諭を配置するようになりました。学校図書館の重要性は司書教諭を配置すれば終わりというわけではなく、学校の心臓部として常に新鮮な情報発信の場であり、問題解決をする役割をもっていなければなりません。

中津市は7年前から学校図書館支援センター推進事業（2011年終了）を実施いたしました。図書館に専任の司書がいることで本当に図書館として機能し、充実した教育環境ができるのです。教育現場の主役は生徒であり、教職員同士、指導方法は違っていても目的は同じだと考えます。生徒たちも、こちらから真剣に働きかければ、必ず何かしらの形となって結果が現れると信じています。それが何年先になるか分かりませんが、何もしなければ今と変わりません。教職員と生徒が一体となって新たな試みに挑戦し続けていくことが、中津市の教育発展につながると考えます。

A 中学校図書館状況（拠点校）

2006年4月～2011年3月

毎週月・水・木曜日（8：10～16：45）に勤務

図書館ディスプレイ

入り口のガラスケースの中の棚や室内の本棚の色塗りや文庫本用本棚は学校用務嘱託員に手伝っていただきました。勤務1年目、右も左も分からない時に頼りない（体力のない）司書に代わって何かと助けていただきました。



図書館入口



図書館内

掲示板展示

本耶馬溪地域の読み聞かせボランティアサークル「どんぐり」が図書館支援活動で一緒に飾り付けを行いました。司書が作ったものより、人生経験の豊富なボランティアが制作した作品が生徒たちに人気でした。なかなか難しいものです。



リクエストボックス



新刊紹介



3分で読めるお話



名作を知ろう！

室内展示



オススメの本



参加型ゲーム・パズル



指定・課題図書紹介



テーマ別本の紹介

授業での利用

調べ学習用に図書館が使えるようになるまで、まだまだ道のりは長いようです。先生だけでなく生徒にも必要な資料提供が困難でした。また、指導案を作成し図書館授業を行うべきであったと思います。



図書館指導の様子



朝読書の様子



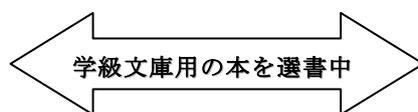
調べ学習資料



調べ学習プリント

図書委員会活動

少しずつではありますが、委員会活動も新しい取り組みをしました。本をたくさん読んでもらおうと、各クラスに30冊の学級文庫を設置し、貸出をしました。朝読書で本を忘れたときや空き時間などに生徒に読ませました。その他にも、昼休みのカウンターでの貸出返却作業、オススメ本のポスターを作り生徒に呼びかけました。



調べ学習用のパソコン導入

学校でもパソコンのインターネットの利用は頻繁です。ネット犯罪など青少年を取り巻く環境は想像を超えるものがあります。そんな中で、少しでもパソコンに触れ、時代の流れに遅れないようにと考え設置しました。しかし、予算がないので職員室で使用済みの古いパソコンを譲ってもらいましたが、読み込みも遅く、キーボードも壊れかけている物もあり、利用する生徒も使いづらいうでした。



各学年に一台ずつ用意



使用の説明と願いの用紙



昼休みの使用風景

学校図書館支援センター推進事業

2006年から2008年まで約3年かけて国と県からの補助金で購入して揃えた物(コンピュータや本のカバー等)と図書支援活動と一緒に手伝ってくださった支援員のボランティアの方々です。図書館用ソフトの業者と協力して、書誌情報と利用者登録、図書の装備、分類番号別に本棚の配置を決めるまでの作業を行いました。作業工程では、当時、機械に弱くパソコンの電源もわからなかった司書にかわって、支援員のY氏がリードして教えてくださいました。



ボランティアとのデータ入力と図書カバー貼り作業

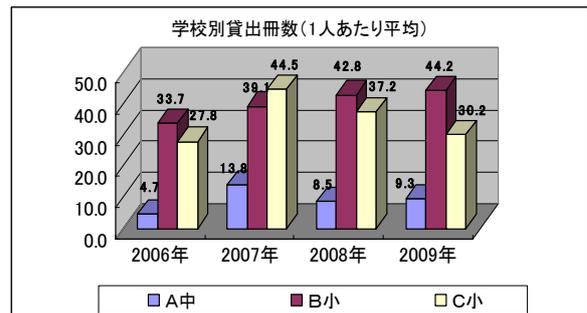
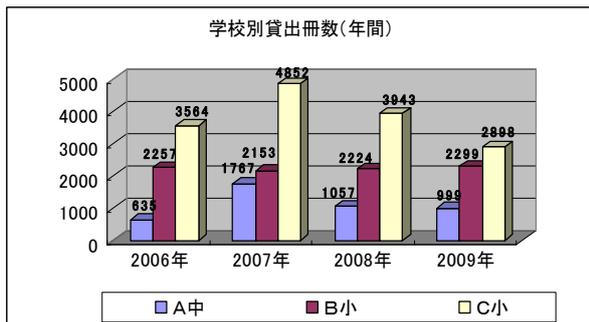
月1度の全学年、朝の15分間の読み聞かせ

ボランティアの「どんぐり」に地域の交流も兼ねて、絵本の読み聞かせをしていただきました。内容は芥川龍之介作『蜘蛛の糸』など古典作品から始まり、環境問題、伝記、食育の本など幅広く多角的視点から考えさせられるものまで様々でした。初めての試みのため司書自身、また先生方も中学生への読み聞かせに抵抗がありましたが、何とか各担任の先生方の協力をいただき、初めは恥ずかしがっていた生徒たちも次第に聞き入ってくれるようになりました。現在では、道徳や国語その他の授業でも教科書に関連する絵本を各教科の先生方が読み聞かせて紹介しています。



貸出、読書データ

このグラフにより、A中学校（全生徒数 107 名）でも生徒数の減少が貸出冊数の減少になっていました。B小学校（全生徒数 52 名）では生徒数の減少傾向にありましたが、1 人あたりの貸出冊数が増加したため 2000 冊台で保たれていました。C小学校（全校生徒 96 名）では授業での貸出により 2007 年度までは増加しました。生徒数の減少から 2008 年度以降は全体的に減少傾向になりました。学校別 1 人あたり平均冊数については、小学校では文章が少ない絵本などを読むことで貸出冊数が自ずと増加しました。中学校では逆に文章量も多く、1 冊読み終えるまでに時間がかかるため、本離れをする生徒が増え、なかなか冊数は伸びませんでした。



小中一緒の図書だより

保護者の方から「学校図書館について内容を知りたいから図書だよりを作ってほしい」と言われたのが最初でした。初めは、どんな内容の文章を書いたらよいのか分からないため、イラストフレームの本を探したり、勤務校の「学校だより」の雛型を見て、インターネットで調べたり、先生方に聞いてみたり、2 年かけてようやく現在の形に収まりました。2006 年と 2007 年のものは、何を書いているのかわからず B5 の用紙に本の紹介や貸出状況など、簡単なものしか思い浮かびませんでした。今見返してみても我ながら恥ずかしいものでした。



(2006 年～2007 年の頃)



(2008 年～2010 年の頃)

B・C小学校図書館状況（巡回校）

2006 年 4 月～2011 年 3 月

毎週火・金曜日（8：15～16：45）に勤務

図書館ディスプレイ

オープンスペース（多目的ホール）の半分のスペースを利用し図書館にしています。扉がなく、開放的ですが、冬は風通しが良すぎて寒くて利用しにくい状況でした。

(B小学校)



多目的ホールの半分



図書館図

(C小学校)



書館内



多目的ホールの半分

掲示板展示

小学校に常駐する時間が少ないため、即席の図書館ディスプレイ資料をコピーして作り、次の年も使い回せるようにラミネートして保存していました。



新刊紹介



図書だより



伝記クイズ



新刊紹介



図書だより



Q&A

室内展示



リクエストボックス



名作紹介



料理本紹介



スポーツ本紹介



おすすめの本



図書館のきまり



図書館のきまり



本の分類

授業での利用

授業で必要な資料は各学校図書館や公共図書館から司書が準備します。B小学校は1～3年生の授業で本の貸出と返却を行い、時には時間がある時は読書ゲームやエプロンシアター、または司書の読み聞かせやビデオ鑑賞などを行います。ゲーム類は準備の時間の確保が難しいため、あまり手の込んだことはできませんでした。他に、「100冊チャレンジ」で冊数を読みこなしていくうちに景品のしおりなどをプレゼントするイベントも行いました。低学年は絵本のページや字数も少なく早く読んでしまい、楽しんで取り組んでくれました。高学年になるほど、ページ数も多く、本離れもすすむ生徒も増えていってしまいました。低学年のうちに本に対する面白さ、楽しさを伝えていくことが必要と思いました。

C小学校の1～2年生の授業では本の貸出と返却、残りの時間は静かに読書をしました。人数が多いため「100冊チャレンジ」は行っておりません。



年に1度、先生方の読み聞かせ



1～3年生の週1度の読書の授業



1～2年生 週1度の読書の時間

図書委員会活動

図書委員会で提案して色々なイベントを企画しました。上津小学校では、校内ランキング1位から5位までのおもしろい本を取り上げて紹介しました。また、読書週間にはスタンプラリーを行い本を借りてくれた児童にスタンプを貯めて景品を渡したりしました。樋田小学校では、この他にも、休み時間の本の貸し出し返却のお世話やお知らせの放送、本の整理、新刊の紹介などをしました。



昼休みの紙芝居

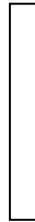


昼休みの紙芝居

読み聞かせ



読書お話クイズ



図書新聞作り



読書クイズ

週1度全学年の朝の10分間読み聞かせ

「どんぐり」に来ていただいて、今年で8年目になります。仕事を持ったお母さん方です。多忙の中で来ていただき、感謝しています。生徒たちはいつも楽しみに待っていました。



3、おわりに

2004年から学校図書館支援センター推進事業で国と県から予算を中津市本耶馬溪地域に配分していただきました。生徒や保護者の方からは「積極的に読書に関するイベントなどをしてほしい」などの要望がありました。子どもたちのためにと必死になっているお母さん方に、自分も期待に込めていきたいと考えました。図書館運営の現場を踏むのも初めてであり中津市内の中学校の学校司書の〇先生の指導を頂き、研修会などに積極的に参加いたしました。そんな中で、他校の司書の方々との交流をとおして学校図書館の現状など、現場の生の声を聞くことが出来ました。各学校が抱えている課題について悩んでいるのは自分1人ではないのだと気づき、大変参考になりました。多くの方と親しくなり仕事も教えていただいたことに感謝しています。

現在、この学校図書館支援センター推進事業の仕事も5年目に入り最後の年になりました。各学校に約6000冊の図書があり、破損本の修理や廃棄、新刊の受け入れや配架など1人でこなすには時間が足りません。

司書の仕事をする中で感動したことは、若いというだけで生徒が図書館に寄って来てくれたということでした。本に興味を持たせるにしても、経験と知識が乏しく、どんなふうに接すればいいかわからないにもかかわらず、経験と知識が乏しいにもかかわらず、本より司書に興味を持って来てくれました（図書館に来てくれるきっかけの一つとして）。そんな中で、生徒たちから自分は将来「司書になりたい」との声も聞きました。自分でもこの仕事に自信を持った瞬間であり、1つの信念を持って仕事をする事の大切さを知りました。今後の私の人生の大きな力になりました。

(あおしま よしこ 学校図書館司書 中津市非常勤嘱託職員)